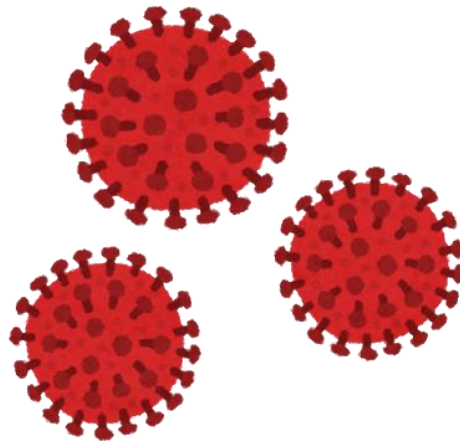


本市における感染状況についての分析



令和 2 年 1 1 月 4 日 (水)
奈良市新型コロナウイルス
対 策 本 部 事 務 局

日本全国及び東京都における新規感染者数の推移

10月31日(土)の新規感染者数

■ 全国 : 877人
■ 東京都 : 215人

8月7日(金)
1,605人

4月11日(土)
720人

4月16日(木)
全都道府県への
緊急事態宣言

4月7日(火)
7都府県への
緊急事態宣言

5月14日(木)
39県への
緊急事態宣言解除

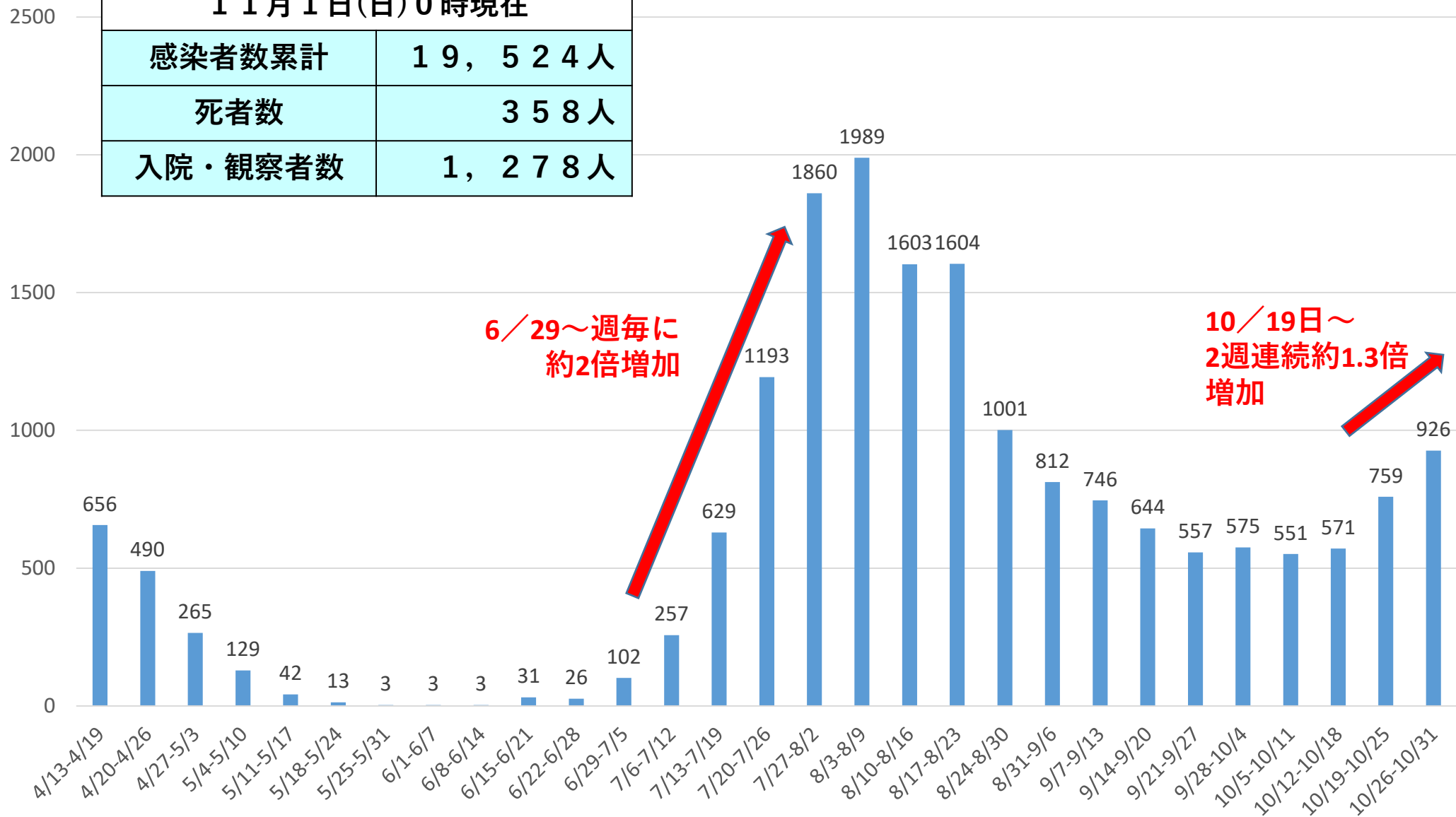
5月25日(月)
緊急事態解除宣言

3/1 3/11 3/21 3/31 4/10 4/20 4/30 5/10 5/20 5/30 6/9 6/19 6/29 7/9 7/19 7/29 8/8 8/18 8/28 9/7 9/17 9/27 10/7 10/17 10/27

関西2府4県における新規感染者数の推移（週単位）

11月1日(日)0時現在

感染者数累計	19,524人
死者数	358人
入院・観察者数	1,278人



奈良県及び本市における新規感染者数の推移（週単位）

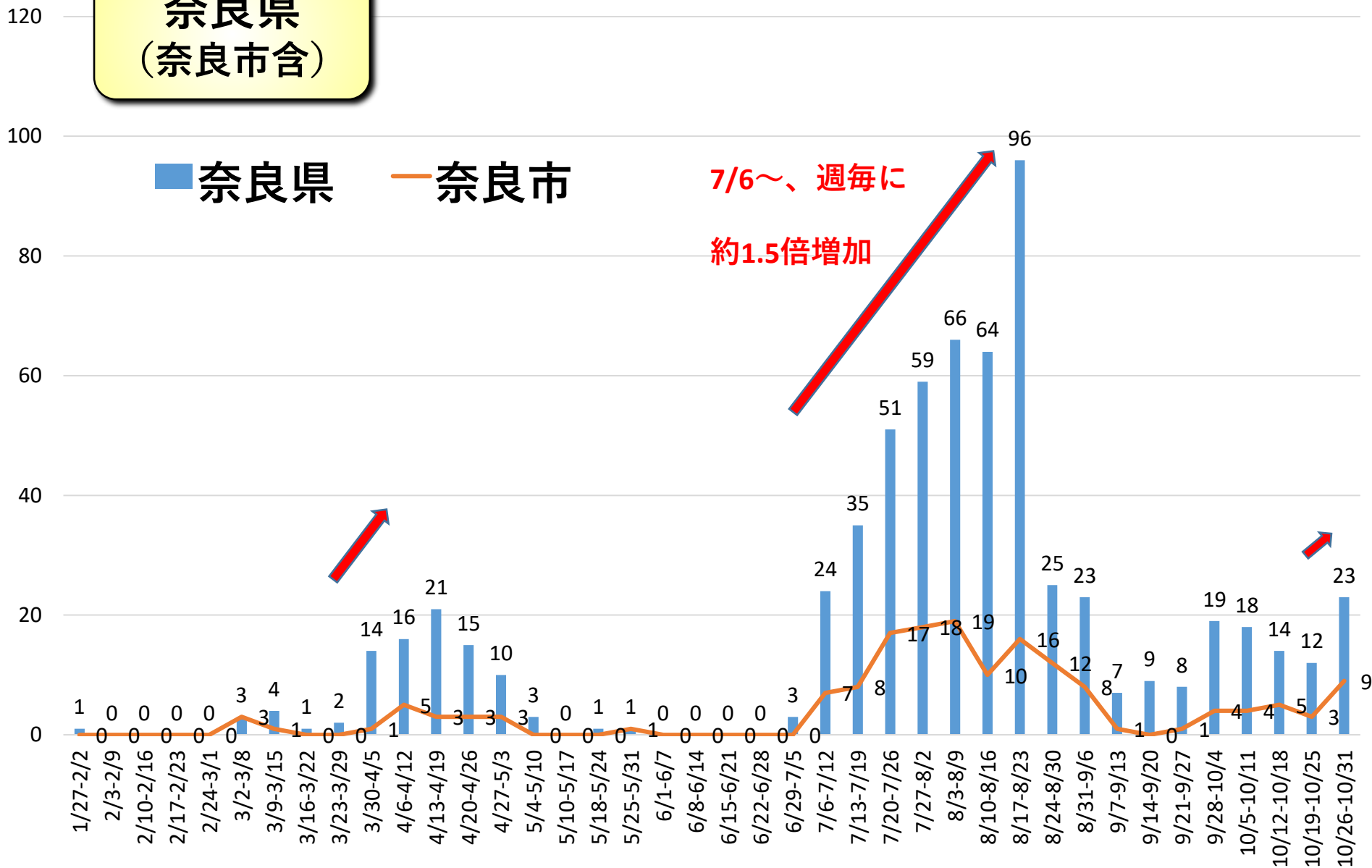
奈良県
(奈良市含)

■ 奈良県

— 奈良市

7/6～、週毎に
約1.5倍増加

感染者数

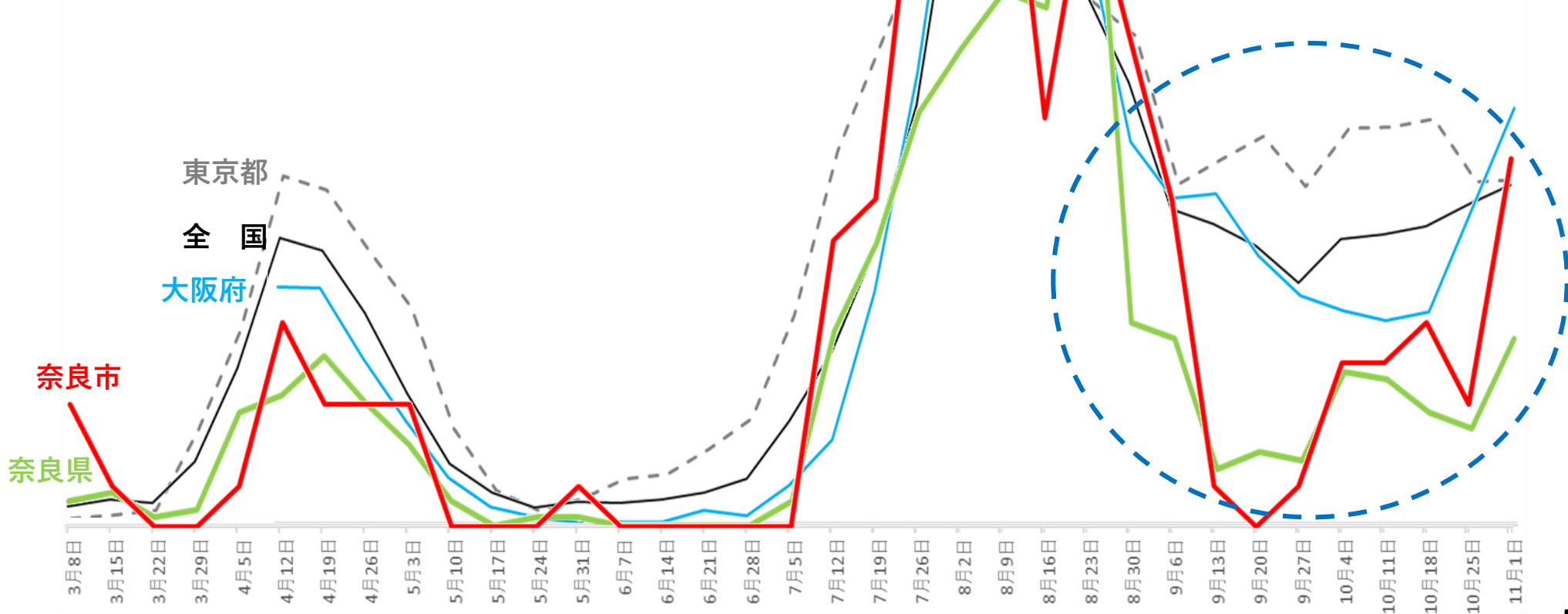


新規感染者数の推移比較（週単位）

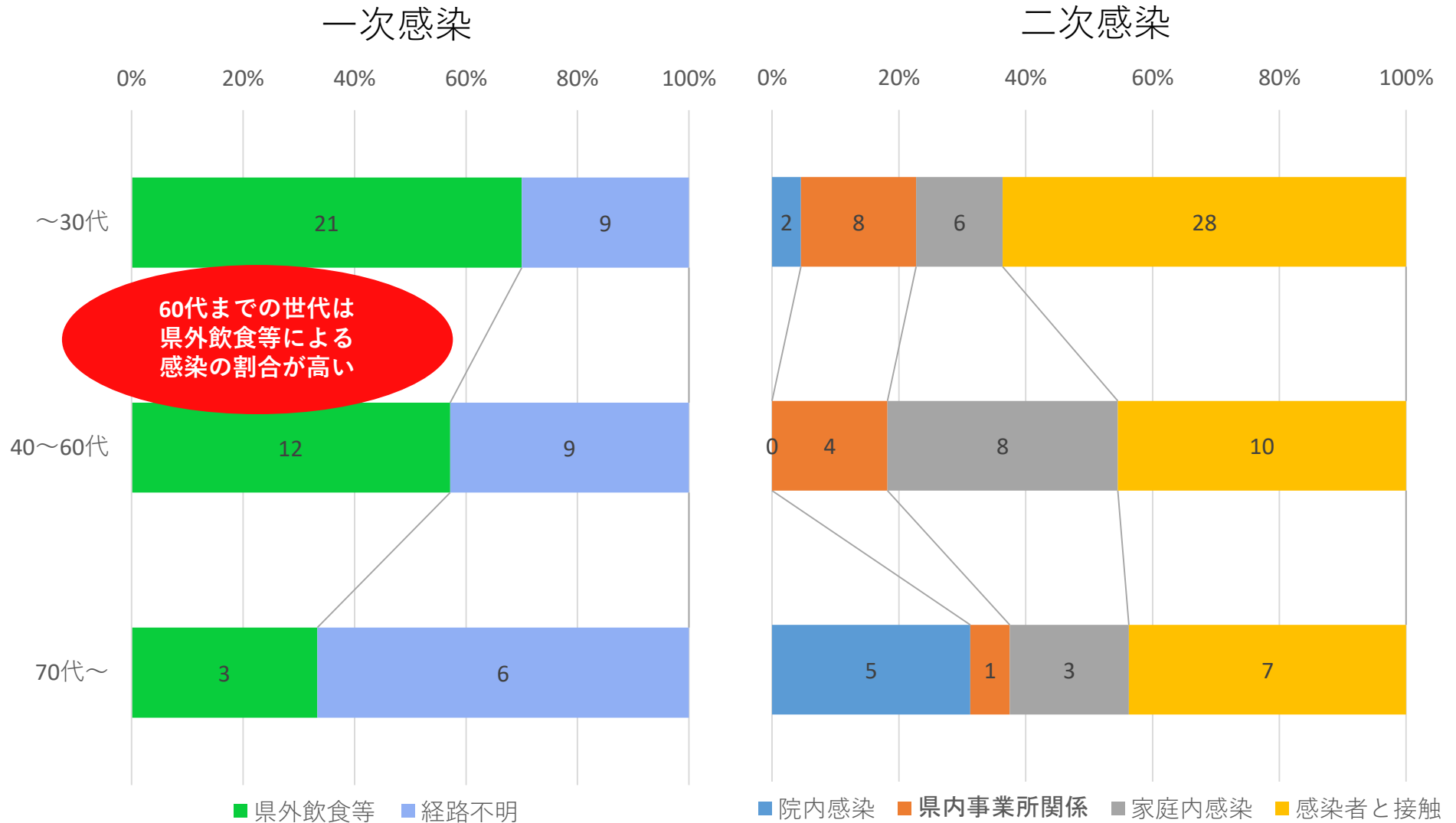
- ・ 近畿2府4県については、本市に大きく影響すると思われる大阪府の数を使用。
- ・ 数に大きな差があるため、グラフをそれぞれのピークで合わせ推移を比較。

第1波は、本市の新規感染者数は、全国、東京都、大阪府と似た傾向にあった。

第2波では、大阪府の増減と似た傾向となっている。



年代別の感染経路



※県外飲食等・感染経路不明 ⇒ **一次感染**：市内在住者として最初に感染された方

院内感染・県内事業所関係・家庭内感染・感染者と接触 ⇒ **二次感染**：一次感染者から感染された方

本市における感染状況の分析

10月31日まで

性別	第1波(20人)	第2波(142人)
男性	55%(11人)	61%(86人)
女性	45%(9人)	39%(56人)

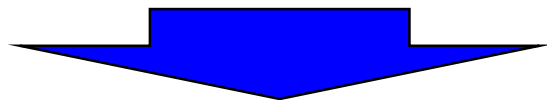
年代別	第1波(20人)	第2波(142人)
～30代	10%(2人)	52%(74人)
40代～60代	55%(11人)	30%(43人)
70代～	35%(7人)	18%(25人)

当初症状	第1波(20人)	第2波(142人)
無症状	15%(3人)	17%(24人)
軽症	55%(11人)	79%(112人)
中等症	25%(5人)	4%(6人)
重症	5%(1人)	0%(0人)

感染経路	第1波(20人)		第2波(142人)		
	クルーズ船関係	10%	一次感染	県外飲食等	60%(36人)
大阪由来	45%	経路不明		40%(24人)	
上記の接触者	10%	二次感染	院内感染	9%(7人)	58%(82人)
感染経路不明	35%		県内事業所	16%(13人)	
			家庭内感染	21%(17人)	
		感染者と接触	55%(45人)		

分析のまとめ

- 関西2府4県、特に大阪府における新規感染者数は、ここ2週間3割増しのペースで、**第3波の兆し**として、**改めて警鐘が必要**
- 第2波以降は大阪府の感染者数増加と本市の状況がリンクしており、直近2週間でも**大阪由来の感染の増加傾向が再燃**
- 女性よりも男性が、高齢者よりも現役世代が多いことから、**出社や外出に伴う接触、飲食による感染が、感染者数増加の大きな要因のひとつ**であると考えられる。
- また、**若者の一次感染**（県外飲食等）が、**高齢者への二次感染**（帰宅後の家庭内感染の他、院内や事業所内感染など）につながるケースが出てきている。
- 第2波では、中等症は大幅に減少、重症はなくなっており、**PCR検査を受けることができる体制**が整ったことで、軽症のうちに感染が判明していることがその要因であると考えられる。



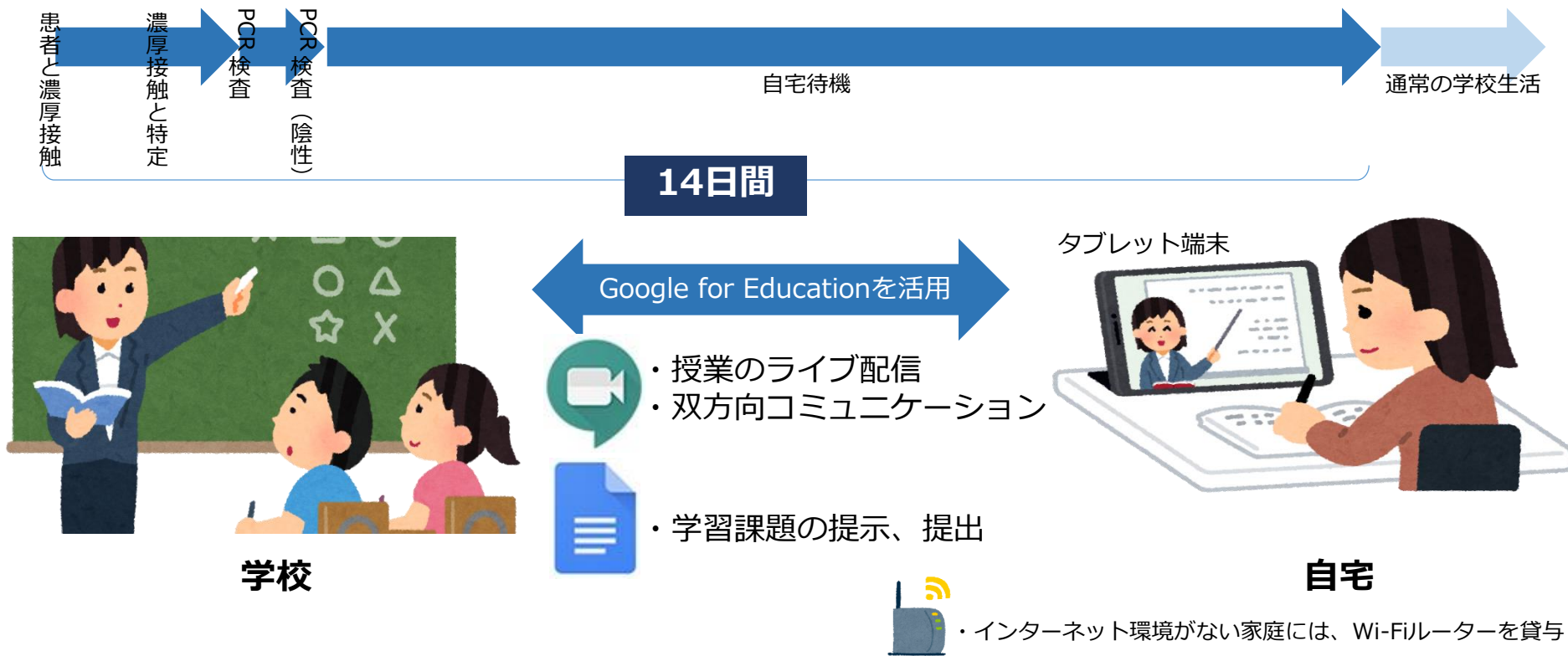
【対応策】

- ・ 帰省や初詣など、人が多く集まる時期を前に、改めて市民に感染予防の周知啓発
- ・ 年末年始においても、PCR検査を実施できる体制
- ・ 職員についても、年末年始における密の回避ができる勤務体制の構築と促進

新型コロナウイルス感染症の発生などにより、児童生徒が登校できない場合、オンラインを活用した学習支援を実施します。

- ・児童生徒が登校できない間の学びを保障するため、**オンラインを活用した授業のライブ配信や学習課題提供などの学習支援を実施**します。その際、GIGAスクール構想による児童生徒一人1台のタブレット端末を使用します。

＜実施イメージ＞ 例：「濃厚接触者」と判断され、本人のPCR検査結果が陰性の場合



年末年始における保健所・医療機関等の対応体制

資料3

	実施内容		12月			1月		
			29日 (火)	30日 (水)	31日 (木)	1日 (金)	2日 (土)	3日 (日)
※赤枠については今年度のコロナ対応のため特別体制								
奈良市 休日夜間 応急診療所	10時～19時 22時～翌朝6 時	入口で受診前にトリアージし、発熱者全てにPCR検査の検体採取を実施	○ ※夜間 のみ	○	○	○	○	○
発熱外来 クリニック	10時～19時	受診調整の予約者と休日夜間診療所で発熱症状で来た患者への問診、 診断と検体採取（PCR検査） 予約制（26名）	○ ※13～ 17時	○	○	○	○	○
ドライブ スルー	火、木： 14時～16時	唾液による検体採取 予約制（最大24名）	○	—	△ (調整中)	—	—	—
検査業務	奈良市総合 医療検査セ ンター	日中の検査部門のみ ※休日夜間応急診療所・発熱外来・ドライブスルーでの検 体採取分)	○	○	○	○	○	○
奈良市 保健所	保健予防課	コロナ感染者等対応業務 ・電話相談 ・受診・入院調整 ・積極的疫学調査 ・クラスター対応 ・濃厚接触者の対応 等	○	○	○	○	○	○
	保健・ 環境検査課	保健予防課が検査必要と判断する検体について随時PCR検査の実施	○	○	○	○	○	○
	保健衛生 課・保健環 境検査課	患者・検体搬送業務	○	○	○	○	○	○
	医療政策課	モニタリング業務：市内・県内の新型コロナウイルス感染状況についてモニタリングしホームページにて市民へ情報発信	○	○	○	○	○	○

年末年始における休暇の分散化策

1 目的

年末年始に多くの方が短期間に集中して休暇を取得すれば人の移動が特定の日偏りに偏り、また、初詣や帰省などで密の状態が生じ感染リスクが高まることから、休暇を分散化させることにより、新型コロナウイルス感染症拡大の予防を図るもの。

(10月23日(金)に開催された国の「新型コロナウイルス感染症対策分科会」による年末年始の休暇に関する提言及び10月30日(金)付の総務省公務員課からの依頼文書を踏まえて検討したもの)

2 休暇分散化の考え方

- ・ 12月29日(火)から1月3日(日)を年末年始休暇として、それ以外の平日は、通常営業とする。
- ・ 通常営業の中でも、12月24日(木)から1月8日(金)を年次休暇等取得奨励期間として、職員が分散して年次休暇等を取得できるよう配慮する。
- ・ ただし、感染状況が急激に悪化するなどの場合は、この考え方を見直す。
- ・ スケジュール

1 2 月								1 月							
24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金

3 年次休暇等の取得を後押しするための施策

- ・ 奨励期間中、仕事納め、仕事始め等の儀礼的行事は行わない。
- ・ 奨励期間中、庁議を含み会議は計画しない。
- ・ 奨励期間中及び直後を提出期限とする、意見照会等を行わない。

市民に対する啓発資料

「分科会から政府への提言」(新型コロナウイルス感染症対策分科会、令和2年10月23日(金))から

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



奈良市保健所からのお願い（その1）

場面①と②

飲酒を伴う懇親会等
大人数や長時間に
及ぶ飲食



利用者



- 4人以下で2時間以内を目安に
- なるべく普段一緒にいる人と
- 深酒は控え、適度な酒量で
- 2次会・3次会は控えて
- 箸やコップは使い回さずに、一人ひとりで
- 座の配置は斜め向かいに（正面や真横はなるべく避ける）
- 会話するときは、なるべくマスク着用
（フェイスシールド・マウスシールドは効果が弱い）
- カラオケで歌う場合はマスクを着用して、マイクはその都度消毒を
- 従業員がマスクを着用、アクリル板の設置、換気の配慮など、ガイドラインを遵守したお店で
- 体調が悪い人は参加しない。

お 店



- ガイドラインを遵守
（従業員の体調管理やマスク着用、席ごとのアクリル板の効果的な設置、換気と組み合わせた適切な扇風機の利用、店内のこまめな消毒、定期的なトイレの掃除、マイクやマドラーなどのこまめな消毒などの工夫も）
- 利用者に上記の留意事項の遵守や、接触確認アプリ（COCOA）のダウンロードを働きかける。



奈良市保健所からのお願い（その2）

場面③

マスクなしでの会話



- マスクなしに近距離での会話は控える
（フェイスシールド・マウスシールドは効果が弱い）
- 昼カラオケの際も、マスクを着用
- 車やバスで移動する際も、マスクを着用して、適宜窓を開ける

場面④

狭い空間での共同生活



- 長時間にわたる閉鎖空間を作らない
- 手洗い・アルコール消毒の徹底
- 寮の部屋、ドアノブなどのこまめな消毒
- トイレなどの定期的な清掃を
- 定期的な体温などの健康チェックを
- 体調に異常があった場合は、速やかに情報共有を

場面⑤

居場所の切り替わり



- 仕事で休憩時間に入った時など、居場所が入れ替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることを認識
- 特に、休憩室、喫煙所、更衣室などでも会話を控えマスクの着用を